

第6章 結論

6 - 1 緒言

第4章から第5章にかけて舎爐夢の歴史、システム、プログラムの把握や、舎爐夢に来るゲストの把握を行った。

本章では、まず「舎爐夢の歴史と意味的参加のはしごの関係」、「舎爐夢における環境配慮の4領域の変遷」、「年度別ビギナーのタイプの変遷」という3つの結果からの考察をする。次に、これらの結果を基に環境共生型ペンションの要素を抜き出す。また、従来のエコセンターと舎爐夢の比較、考察から、新たな形態の舎爐夢型エコセンターの提案を行う。

6 - 2 舎爐夢の変遷と多様性について

「舎爐夢の歴史と意味的参加のはしごの関係」、「舎爐夢における環境配慮の4領域の変遷」、「年度別ビギナーのタイプの変遷」という3つの結果から舎爐夢の変遷とホスト、ゲスト、環境イメージとの関係の考察を行った。

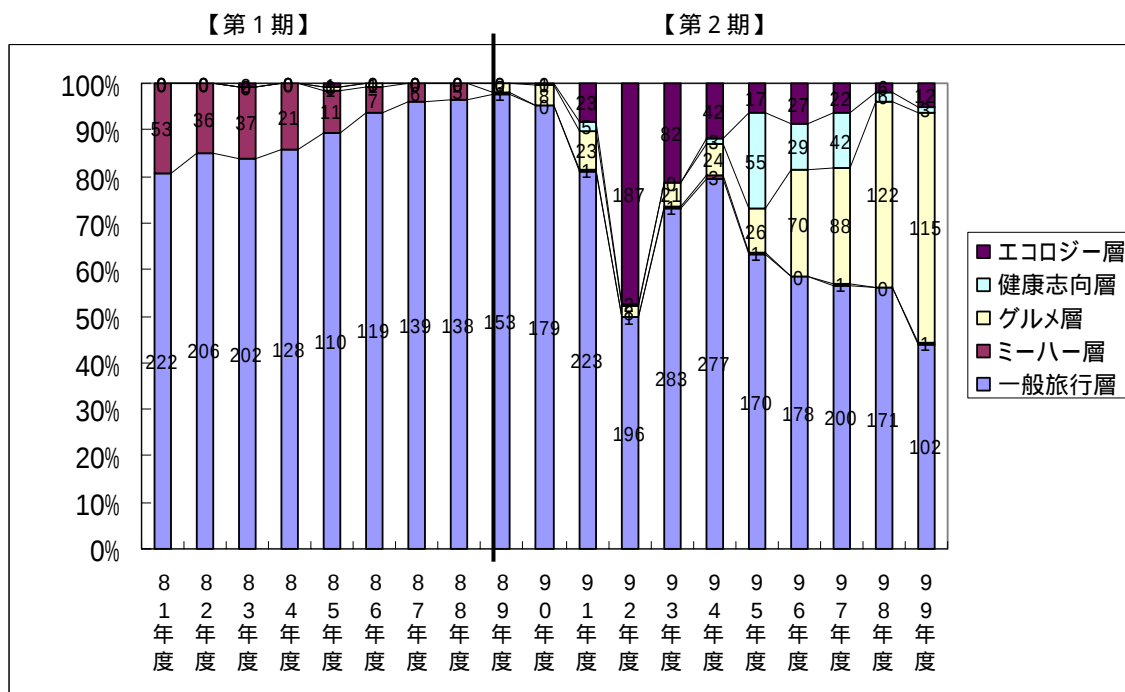


図6 - 1 年度別のビギナータイプの変遷

(1) 第 1 期

表 6 - 1 第 1 期における意味的参加のはしご

		ホスト	ゲスト
↑	意味付与・創造 意味参加・支援	創造 (innovation)	
	意味宣伝 意味伝達	伝達 (communication)	
	意味入手 意味享受	受容 (acceptance)	

第 1 期は、意味的参加のはしごでいうところの受容 (acceptance) の段階である。これはオーナー (ホスト) が自分の生活を見つめなおし、環境イメージとの関係を模索している段階である。ここで、図 6 - 2 をみると、ハード - ホストの領域、ソフト - ホストの領域というゲスト側に関係する取り組みしか行われていないことがわかる。しかも、環境イメージを完全に受容できていないので、日常生活や宿泊業としての含爐夢に、環境への取り組みを反映できていないのである。その結果、ゲスト側の取り組みまで取り組めていないのである。したがって、

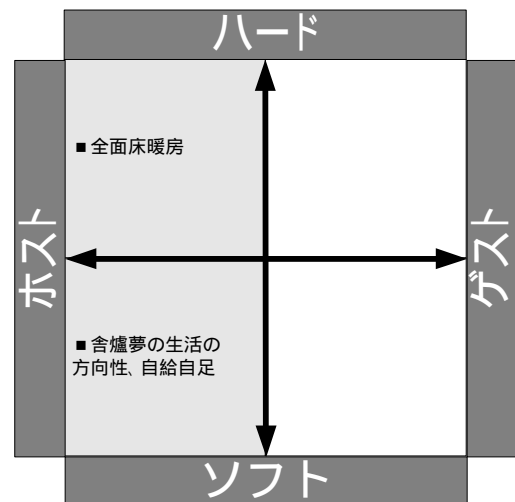


図 6 - 2 含爐夢における環境配慮の領域 (第 1 期)

ゲストにとっての魅力は、セルフビルドである事や、自給自足を目指している事しかなく、その事に伴ってゲストのタイプも一様化 (図 6 - 1) するのである (図 6 - 3)。

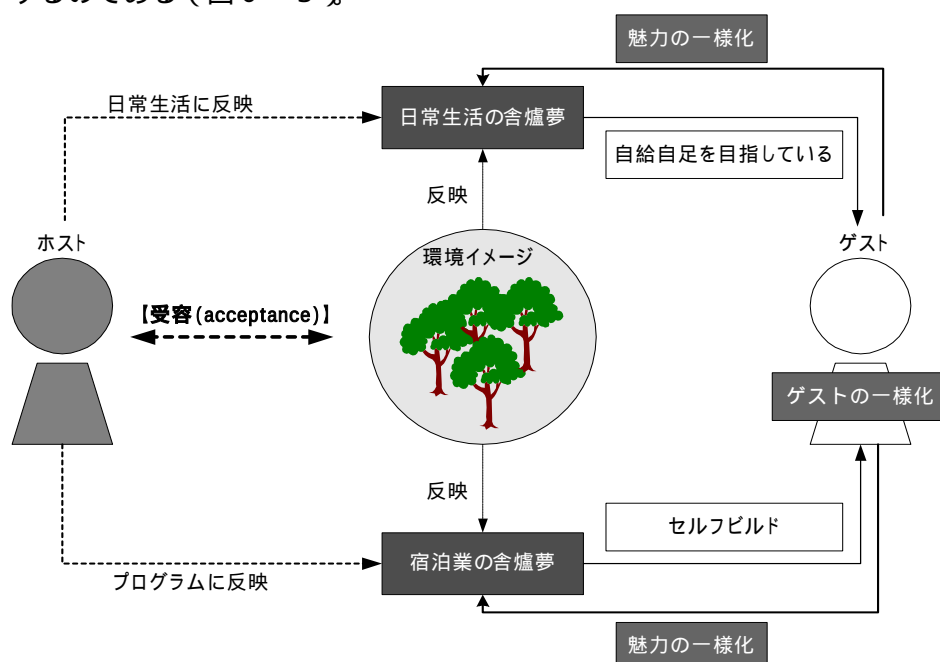


図 6 - 3 第 1 期におけるホスト、ゲスト、環境イメージの関係

(2) 第 2 期

表 6 - 2 第 2 期における意味的参加のはしご

		ホスト	ゲスト
↑	意味付与・創造 意味参加・支援	創造 (innovation)	
	意味宣伝 意味伝達	伝達 (communication)	
	意味入手 意味享受	受容 (acceptance)	

第 2 期は、意味的参加のはしごでいうところの伝達 (communication) の段階である。この段階では、オーナー (ホスト) が、環境イメージを受容し、付き合い方が明確に決まり、さらにそのことを外 (ゲストなど) に伝達する。図 6 - 4 (図中の ■ の取り組みは、以前から取り組んでいたもの。■ の取り組みは、新しい取り組み) をみると、第 1 期ではホスト側の取り組みしか出来ていなかったのに対して、ハード - ゲストの領域、ソフト - ゲストの領域というゲスト側の取り組み行うようになっている。しかも、ホスト側の取り組みに関しても、様々なことを取り組んでいる事がわかる。これは、環境イメージを受容していることで日常生活や宿

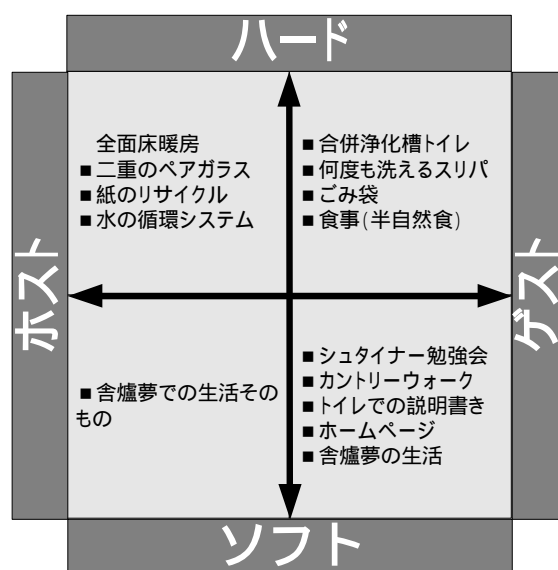


図 6 - 4 舎壚夢における環境配慮の領域 (第 2 期)

泊業の舎壚夢に、持続可能な生活や様々なプログラムという形で反映する事が出来ているからである。そして、この持続可能な生活を体験してもらう事や見てもらう事、様々なプログラムを体験してもらう事によってゲストに環境に対する取り組みを伝達する事が出来ているのである。このことにより、ゲストと環境イメージの関係が生まれている。

したがって、ゲスト側にとっては魅力が多様になり、舎壚夢に行く目的が増加する。その事によって、ゲストの多様化が生まれるのである (図 6 - 1)。また、舎壚夢にいて持続可能な生活やプログラムを体験したゲストの中には、環境に対して興味が沸いたり、考えたりする事によって「もちかえり」がおこり、意味的参加のはしごにおける受容の段階に達する可能性が考えられる (図 6 - 5)。

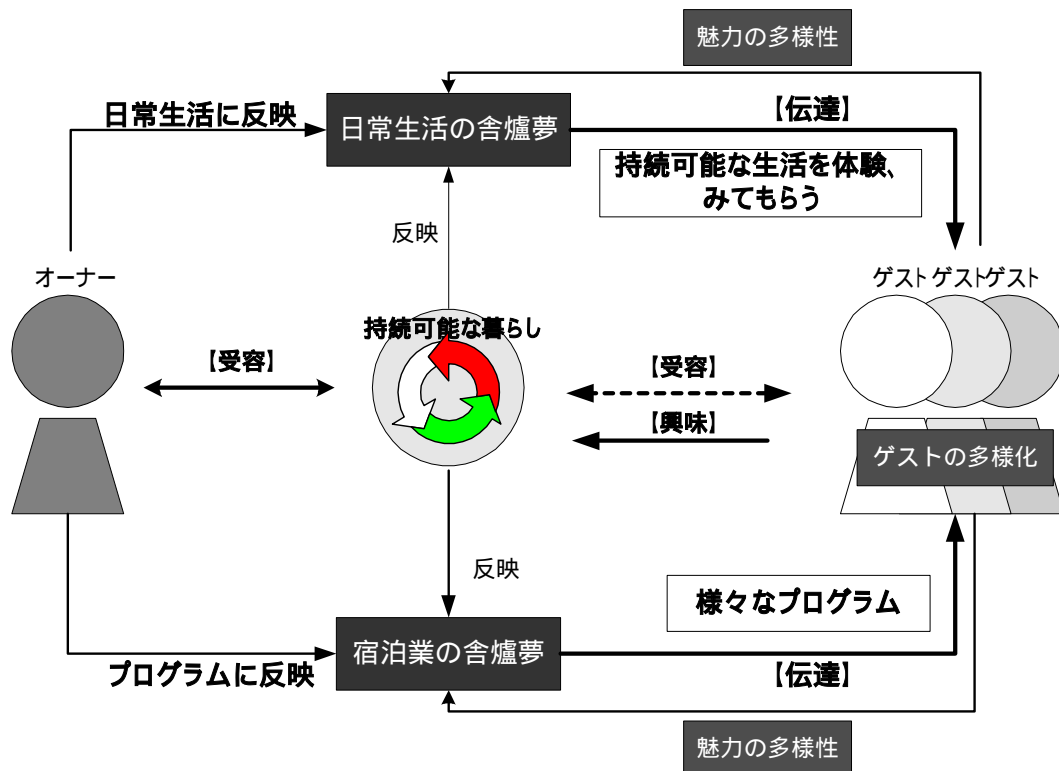


図 6 - 5 第 2 期におけるオーナー、ゲスト、環境イメージの関係

(3) 第 3 期

表 6 - 3 第 3 期における意味的参加のはしご

		ホスト	ゲスト
↑	意味付与・創造 意味参加・支援	創造 (innovation)	
	意味宣伝 意味伝達	伝達 (communication)	
	意味入手 意味享受	受容 (acceptance)	

第 3 期は、意味的参加のはしごでいうところの創造 (innovation) の段階である。この段階では、オーナー (ホスト) が、環境イメージを受容し、付き合い方が明確に決まり、さらにそのことを外 (ゲストなど) に伝達する。そして、さらには創造するというレベルにまで達している。図 6 - 6 をみても、第 2 期にも増して取り組み内容が多様になっていることがわかる。これは、パーマカルチャーや自然農など、新たに創造された取り組みが、増加しているからである。また、施設としては、舎廬夢コミュニティという、レストランやフェアトレードの雑貨を扱った雑貨屋を含む施設を創造した。このことによって、舎廬夢の魅力はさらに多様化したと考えられる (図 6 - 7)。また、本研究ではデータの関係上、第 3 期のビギナーのタイプについては、把握する事が出来なかったが、魅力が増したことによりゲストの多様化がさらに進んでいると考える。つまり、舎廬夢が新しい取り組みを行い、魅力が増すということは、ゲストにとっての窓口が広がるのである。

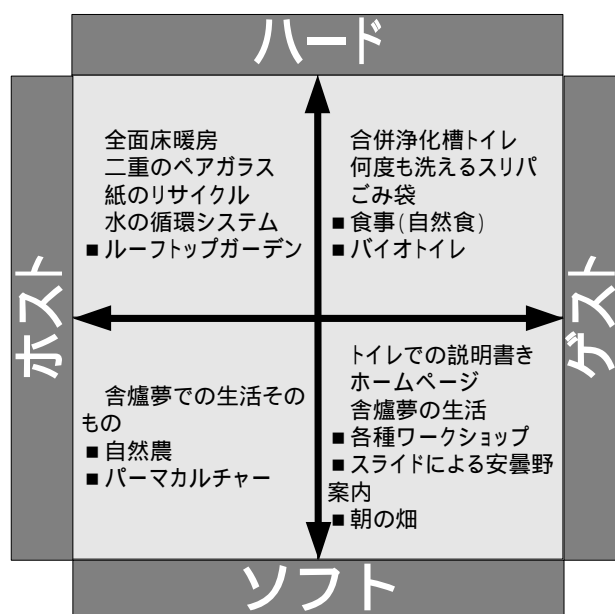


図 6 - 6 舎廬夢における環境配慮の領域 (第 3 期)

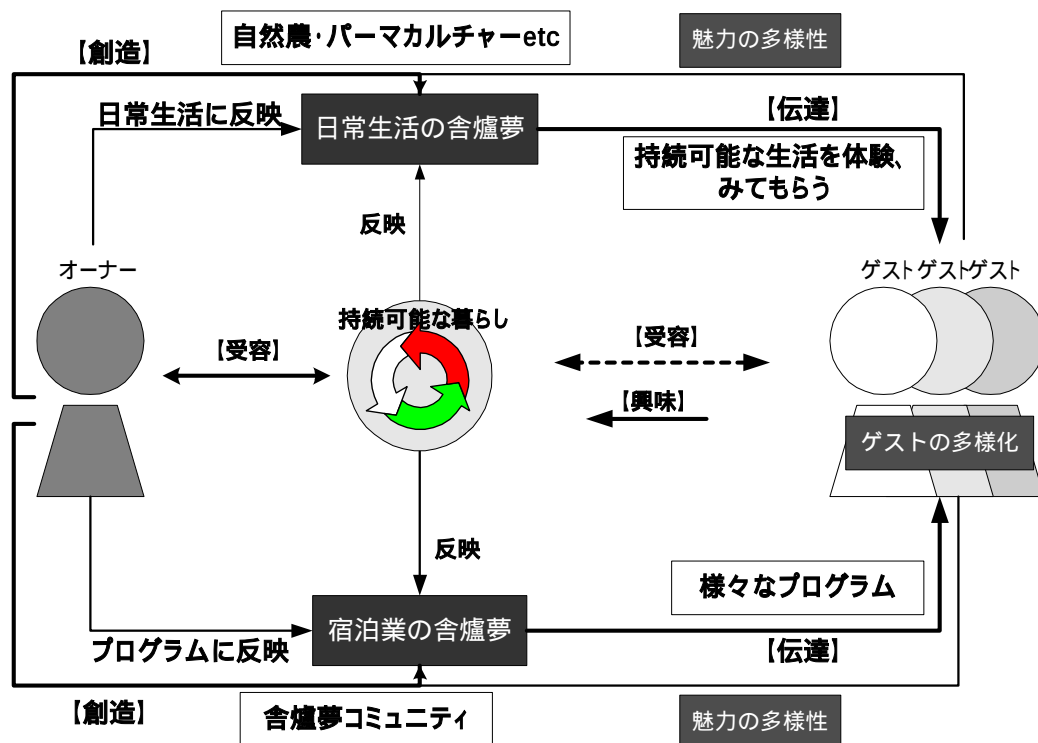


図 6 - 7 第 3 期におけるオーナー、ゲスト、環境イメージの関係

以上のように、第 1 期、第 2 期、第 3 期と意味的参加のはしごを上っていくことにより、オーナーの環境イメージが明確になり、環境をより身近なものとして捉えるようになった。したがって、日常生活や宿泊業にまで環境配慮の取り組みを取り入れたのである。

これは、人間 - 環境システムとして成熟した段階にあるといえる。また、環境配慮の取り組みを、日常生活や宿泊業にまで行った事によって、ゲストにとっては、その取り組みが魅力に変化したと考えられる。したがって、舎爐夢が、第 1 期、第 2 期、第 3 期と基本的な部分を残しつつ、新しいものを取り組んできたことによって魅力が積み重なり、その事によって、様々なゲストの興味や目的に適応できるものとなったのである。

舎爐夢では、現在の宿泊施設があまり取り組んでいない、ゲスト側の取り組みを行う事によって、ゲストに対しての新たな魅力を創造する事に成功したと考えられる。このことから、宿泊施設にとって敬遠されがちなゲスト側の取り組みも、取り組み方によっては宿泊施設の新たな魅力となるとともに、満足を満たす事も出来るのである。また、ソフトーゲストの領域の取り組みを行っている事から、環境の事だけでなく、生活や生き方、食事に至るまで、ゲスト別に様々な「もちかえり」が行われている。

これらのことから、ソフトーゲストの領域の重要性を以下に示す。

- 「宿泊施設における環境配慮の 4 領域」の他の領域をつなぐ役割をしている
- ゲストにとって魅力になり得る ゲストの多様性に繋がる

- 持続可能性など「もちかえり」が行われる可能性がある リピーターやゲストの意識変化に繋がる
- オーナーはゲストとのコミュニケーションが増え、そこから情報を読み取り、それを反映する事が出来る

6 - 3 舎爐夢ヒュッテとは

(1) 舎爐夢の特徴

第 4 章では舎爐夢の歴史、システム、プログラムについてみていく事によって、舎爐夢を構成している要素を明らかにした。以下にこの 3 点を簡単にまとめる。

まず、舎爐夢の歴史については、「食」に注目して考察した。そして舎爐夢の食事が普通の食事の時期、肉類を少なくした自然食にした時期、肉類をなくし完全に菜食のみの自然食にした時期と言うように 3 つの時期に分ける事が出来た。その結果、舎爐夢は建設当初から自給自足の持続可能な生活を目指していたが、「食」を自然食に変えた事をきっかけに様々なことを実践し始めているという事を把握した。このように、舎爐夢では第 1 期、第 2 期、第 3 期と時期を経るに伴って、舎爐夢の魅力を増幅させていったのである。

次に舎爐夢のシステムについて考察した。舎爐夢はホテルや旅館とは異なり、ホストの生活とゲストの生活に明確に境界というものがあまりみられない。つまり、舎爐夢の宿泊施設としてのシステムとホストの日常生活のシステムが混在しているのである。したがって、この二つのシステムをあわせてみる事が舎爐夢のシステムだということができる。

宿泊施設としてのシステムだが、舎爐夢の特徴は大きく 3 つある。まず 1 つは、宿泊のタイプが 1 種類出ない事である。このことによって、ゲストのメンバー構成や経済的理由に関わらず宿泊することができる。

2 つ目は、基本的なプログラムと言うものはあるものの、自由参加であり、ゲストの目的や気分によって自由にプログラムを組む事が出来る柔軟性が存在している事である。

3 つ目としては、最低限の規則はあるものの基本的には自由であり、ゲストを信頼する事に基づいている事である。

最後に舎爐夢のプログラムについて考察した。ここでは、舎爐夢の歴史で分類した 3 つの時期ごとにみて、プログラムの変遷に注目した。その結果、プログラムは舎爐夢の歴史に大きく相関しており、「食」を自然食に変えて様々なことを実践していくにつれて、取り組みをプログラムとして反映している事がわかった。つまり、第 1 期では普通の施設と変わらないようなプログラムであったのが、第 2 期を境にして舎爐夢のコンセプトを体験できるようなプログラムへと変わっていったのである。そして、第 3 期にはより充実したプログラムが行われるようになったのである。

以上のことを踏まえて、以下に舎廬夢の特徴を抽出した。

舎廬夢では、1つの施設のみで様々な魅力を持っている。つまり、多様性（Diversity）を成立させている。

ゲスト別に対応できる、自由で柔軟なシステムを確立させている

施設の設備から様々な取り組み、プログラムに至るまで、舎廬夢の思想を核として、全て有機的に結びついている

（２） 舎廬夢に来るゲスト

第5章では舎廬夢のゲストに焦点を当て、舎廬夢に来ているゲスト、またゲストと舎廬夢の関係性を把握した。ゲストは大きくビギナーとリピーターに分類し、それぞれに焦点を当て考察した。

舎廬夢に来るゲストの全体的な特徴としては以下の通りである。

- ゲスト数：第1期の当初は伸び悩んだものの、第1期後半から順調に増加した。そして、第2期で自然食にし、その事が雑誌に紹介されたのを契機としてさらに増加する。第2期の後半からは1日の宿泊人数を減らすということでゲスト数は減少していくが、そのあと徐々に増加している。
- 年齢層：幅広い年齢層が舎廬夢に訪れている。これは、年代関係なくゲストを引き付ける魅力があるということと、どのような年齢層にも対応できる柔軟なプログラムがあるからだ考える
- 男女比に関しては、平均して2：1の割合で女性の方が男性よりも多い。このことは、女性の方が、消費意欲が高いということに関係していると考えている。
- グループ構成：「家族」と「女グループ」で全体の約70%を占めている。そして、第2期に入ると、「家族」の割合が増加する。これは、第2期になり様々な取り組みを始めた事により、幅広い人に対応できるようになったからであると考え
- 動機：雑誌を見てきた人が、どの年度も70%くらいを占める。
- リピーター：年度別に多少のばらつきはあるものの、毎年100組以上のリピーターが来ている。

ビギナーについての調査から、次の事を把握した。

舎廬夢のゲストは単一的なタイプではなく、多様なタイプのゲストが訪れる。しかし、最初から多様であったわけではない。舎廬夢の魅力が増すにつれて徐々に多様になったと考えられる。以下に、本研究で把握した、舎廬夢に来るゲストの5つの層を示す(表6-4)。この5つの層は最低限5つの層という意味である。

表 6 - 4 ビギナーの層とその説明

ビギナーの層	説明
■ 健康志向層	アトピーの人や、健康に気を使っている人、ダイエットしようとしている人などで、食事や生活を見直そうという気がある人たちの層
■ グルメ層	舎廬夢の自然食を食べるのが目的で来ている人たちの層
■ エコロジー層	舎廬夢の暮らしや取り組みに興味を持ち、体験したり、みに来た人の層
■ ミーハー層	舎廬夢の成り立ちやセルフビルドという興味から来た人の層
■ 一般旅行層	観光旅行のいち宿泊施設としてきた人の層

リピーターについての調査からは次の事を把握した。舎廬夢のリピーターは、1年に何回も訪れる割合が高く、閉鎖型と連鎖型の2種類のリピーターが存在する。閉鎖型リピーターとは、基本的に1回目来たメンバーとあまり変わらないメンバーで来るリピーターの事である。一方、連鎖型リピーターは決まったメンバーで来るのではなく、様々な人と舎廬夢に来る。つまり、様々な人に舎廬夢を紹介しているのである。また、舎廬夢の連鎖型リピーターは他の宿泊施設の連鎖型リピーターと異なり、紹介する人自身も何回も舎廬夢に訪れるという特徴がある。

このような舎廬夢のリピーターの特徴を構成している要因としては、次の事が考えられる。舎廬夢は基本とする部分を残し（懐かしさ）、さらにそこから上乘せさせるように発展させていく（新鮮さ）のである（図6-8）。この懐かしさと新鮮さを両立している事が、舎廬夢がリピーターを魅了している仕組みであると考える。

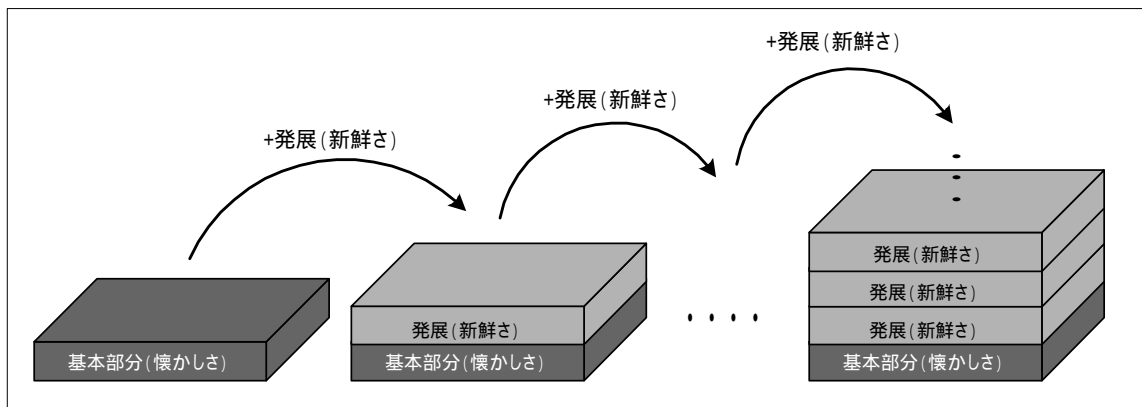


図 6 - 8 舎廬夢の発展モデル

6 - 4 環境共生型ペンションの要素について

舎廬夢の調査から把握した事から、環境共生型ペンションに必要なと思われる要素を以下に示す。

施設の魅力が、自然食のみのように単体で存在するのではなく、様々な魅力が存在している。つまり、多様性 (Diversity) を成立させる

設備から様々な取り組み、プログラム、魅力に至るまで、思想を核として、全て有機的に結びついている

取り組みを増やしていく時は、基本とする部分を残し (懐かしさ) さらにそこから上乘せさせるように発展させていく (新鮮さ) (図 6 - 7)。つまり、懐かしさと新鮮さの共存が必要

環境イメージとホストの関係を明確にして、意味的参加のはしごを上るように、段階をへて変化させていく

ゲスト別に対応できる、プログラムや宿泊形態など、自由で柔軟なシステムを確立させる

ソフト - ゲストの領域を重点的に取り組む事により、オーナーはゲストから情報を汲み取り、その事を様々な取り組みに反映させる

ホストはゲストに対して割り切りが必要 全てのゲストに納得してもらう事は不可能

以上に 7 つ環境共生型ペンションの要素を挙げた。これは、舎廬夢 1 つの事例から抜き出した要素であり、一般性という点に関しては、欠けていると考える。また、これらの要素が、必ずしも必要なのかという段階までは調査できていない。しかし、この環境共生型ペンションの 6 つの要素は、現在、環境共生型ペンションとして成功している舎廬夢の要素である。よって今後、舎廬夢のような環境共生型ペンションを目指している宿泊施設にとって重要な指針や目指すべき指標に成り得ると考える。

6 - 5 エコセンターとしてみた舎爐夢ヒュッテ

舎爐夢とは、単なる宿泊施設としての領域を越え、1つの閉じた世界での持続可能な生活（閉鎖循環）を確立させつつある。そこで、本研究では近年エコロジーのテーマパークとして注目され始めているエコセンターと舎爐夢の比較、考察から、新たな形態の舎爐夢型エコセンターの提案を行う。

6 - 5 - 1 エコセンターとしての舎爐夢の位置付け

今までのエコセンターの始まりとして産業、教育、エコヴィレッジの3つの入り方があると言う事は述べた。しかしながら、エコヴィレッジとエコ学習、つまりコミュニティと観光を両立させたものがないというのが現状である。それは、観光ではゲストが入ったり出たりする。しかし、エコヴィレッジとは閉じた社会での循環を目指す。したがって、この2つが存在するということは矛盾が生じてしまうのである。

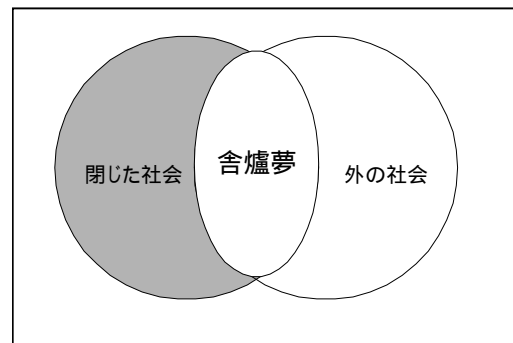


図6 - 9 媒介役としての舎爐夢

しかし、舎爐夢ではこの問題を巧みに解決しているといえるのではないだろうか。つまり、外の社会と閉じられた社会の媒介役（つなぎ役）として宿泊施設としての舎爐夢があるのである（図6 - 9）。このように、舎爐夢が閉じた社会と外の社会をつなぐ役割をしていると捉えると、今まで存在しなかった形態のエコセンターを提案できると考える。この新しい形態のエコセンターを舎爐夢型エコセンターとして、次にこの特徴を見ていく。

6 - 5 - 2 舎爐夢型エコセンターの特徴と限界

次に舎爐夢をエコセンターとして捉えると、従来のエコセンターとは異なった要素や特徴を見出す事が出来る。以下に舎爐夢型エコセンターの特徴と限界を考察する。

[1] 舎爐夢は従来のエコセンターのように、他の企業や団体から資金援助を受けずに単体で成立させている。それは、宿泊業をメインにすることによって経済性を確保しているからである。また、基本的には舎爐夢単体でやっているのもので、他の企業や団体からの圧力を受けずに自らの方向性にそって発展・進化させることが出来る。

[2] 舎廬夢の多様性には、エコセンターに必要な持続可能性の暮らしに関する多様性 + 宿泊施設としての魅力の多様性という大きく 2 つのタイプの多様性が存在している。

このことは、エコセンターのように持続可能性の暮らしに関する多様性しか存在していない事から誘引されるであろうゲストのタイプの単一化（環境に関心がある人。環境意識が高い人）という問題を解決している。つまり、従来のエコセンターよりも幅広いゲストを対象とする事が出来る。

[3] 舎廬夢型エコセンターは、深さよりも広さを重視した施設である。なぜならば、全く環境に興味のない人も舎廬夢に訪れ、そこで舎廬夢を体験するからである。

したがって、持続可能性という暮らし方があるということを認識させるという意味で、裾野を広げるのに効果があると考ええる。しかし、ゲストが深さを求めれば、深さを達成する事も可能である。

[4] 舎廬夢には、持続可能な暮らしに興味を持った人から、ただ単に癒されに行く、のんびりしに行くという人まで幅広いゲストが存在する。エコセンターの目的である、持続可能性や環境に関して学んでもらう事を第一に考えると、舎廬夢型エコセンターでは、この点を達成できない。したがって、この点が舎廬夢型エコセンターの限界である。

4 点の舎廬夢型エコセンターの特徴と限界について述べた。そこから、舎廬夢型エコセンターでは、単体施設での経済性の確立や、持続可能性という暮らしの認識を広めるという意味での裾野の拡張という点で従来のエコセンターよりも優れているのではないかと考える。しかし、裾野を広げるという点に関しては、エコセンターの目的や方向性が大きく関係する。つまり、対象とするゲストによって変わってくると考える。例えば、特定のゲスト（持続可能性に興味のある人など）に、持続可能性や環境について詳しく知って欲しいのか。また、多くの一般市民などに広く持続可能性に関して知って欲しいのか、という対象ゲストや目的の設定によって方針や展示の仕方などが変わってくると考える。

以上のことを踏まえて考察すると、舎廬夢型エコセンターは、持続可能性や環境に関する認識の裾野を広げる事を第一目的に考えると、最適なエコセンターのモデルに成り得ると考える。

6 - 6 今後の課題

(1) 本研究では、舎廬夢 1 件の事例しかみていくことができなかった。その結果、得られた結果の一般性に欠ける点と、舎廬夢型の環境共生型ペンションが良いのかという比較、考察が出来ていないという点を課題として挙げる事が出来る。つまり、本研究の結果はあくまで舎廬夢型の環境共生型ペンションの要素であり、他の環境共生型ペンションが存在するならば、その数だけ要素があるのではないだろうか。しかし、現状として舎廬夢のように総合的な環境共生型ペンションがあまり存在していないのは事実である。

したがって、今後の課題として、このような環境共生型ペンションと比較、考察する事によって一般性の高い要素を抜き出す必要があると考える。

(2) 次に、本研究では主にホスト側の取り組みや意識に関しての調査を行った。よって、ゲストに関してヒアリングなどの詳しい調査は出来ておらず、ゲストの意識変化や「もちかえり」などに関して詳しく把握する事はできなかった。しかし、この点を把握する事によって、環境共生型ペンションに宿泊することによるゲストに与える効果や影響がみることが出来るのではないだろうか。したがって、ゲスト側の調査を詳しく行う事が今後の課題として必要であると考ええる。